

人とかかわる力を育てるための援助の工夫

那覇市立上間幼稚園教諭 松原 真弓

テーマ設定理由

幼稚園教育要領解説（平成 11 年 6 月）第 1 章第 2 節に「他の人の存在に気付き、かかわりを求める幼児期は、社会生活において必要とされる自立と協同の態度及び道徳性などの芽生えを培う上で大切な時期であり、それらの生活の中で様々な人と触れ合い、互いの感情や意志を表現したり、共感したりすることを通して培われるものである。」と述べられている。

幼児期は、家庭における保護者との関係だけでなく、園生活を通して他の人々の存在に気付き、かかわりを求めるようになり、人とかかわる力の基礎を培う時期である。

そのため、幼稚園において教師との信頼関係を基盤にし、園生活や遊びを楽しむ過程で、豊かな体験を味わうことが大切である。幼児が豊かな体験を味わうためには、教師が幼児の発達を見通した上で、その時期に必要な体験を得られるように援助する必要がある。例えば、困難な場面に直面した時には温かく支え、共に考えながら、幼児自らつまづきを乗り越えていけるような教師のかかわりなどである。

ところで、本園の幼児の実態として、自分の思いが通らないとすぐに癇癪を起こしたり、泣き出してしまう子など自己コントロールのできない子や、周りの反応に対して過敏で自分の素直な思いや感情を出すことができずに、思いを抑制してしまう子が増えてきているように思える。教師は、このような幼児一人一人の発達の特性を捉えながら、充実した園生活を送れるように援助しなければならない。

しかし、これまでの私の保育を振り返ってみると、人とのかかわりを育てるよい場面であるにもかかわらず、幼児同士のいざこざを未然に抑えてしまったり、先回りをして子ども達がつまづかないようにしてしまうなど、幼児の自立性を大切にした発達の援助を促すことが不十分であった。

そこで、人への愛情や信頼感を育て、人とかかわる力を育てるために、遊びを通して、楽しさ、喜び、悲しさ、怒りなどの感情体験を重ねながら、友達と一緒に活動することの楽しさに気付かせ、互いの良さを認め合い、自己の存在感を実感できるような、援助の工夫について研究したいと考え本テーマを設定した。

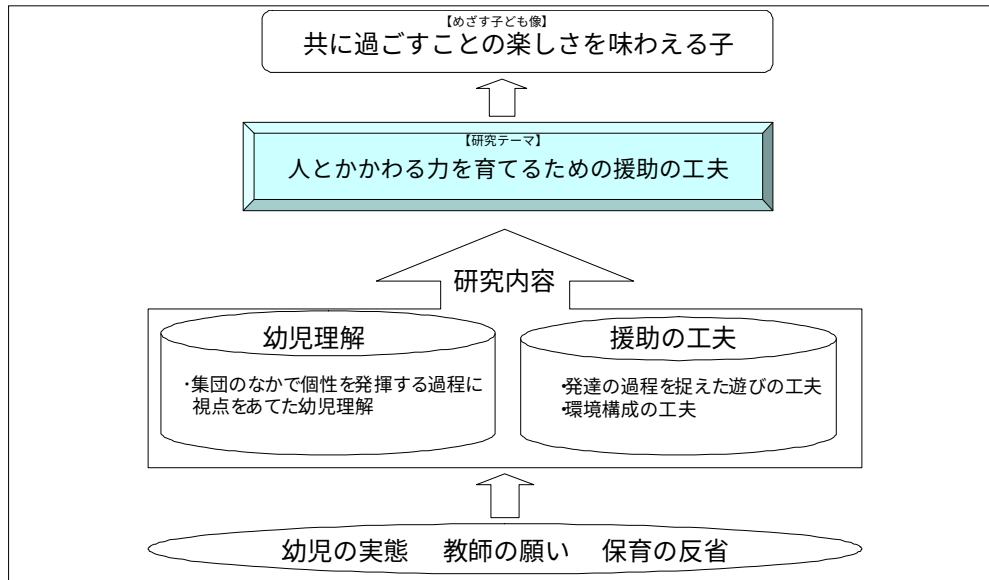
研究目標

園生活での遊びの場面を通して、人とかかわる力を育てるための援助の工夫について研究する。

研究方針

- 1 幼児の発達の方向を見通し、人とかかわる力を育てる援助を行うための幼児理解を深める。
- 2 幼児の発達の時期を踏まえ、人とかかわることの楽しさを味わえる援助として、遊びと環境構成を工夫する。

研究構想図



研究内容

1 幼児期における人とかかわる力

幼稚園において、「教師との信頼関係に支えられた生活」「興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験が得られる生活」「教師や友だちや周囲の人々とかかわって展開する生活」が大切である。これらの生活を通して、総合的に成長や発達を促しながら、人とかかわる力も育てていくことになるからである。

幼児は、園生活を通して、教師や友達と一緒に活動する楽しさや喜び、ときには自己主張のぶつかり合いなどを繰り返しながら友達との関係を築き、友達関係は広がりを見せるようになる。そして違う主張や感情をもった相手の存在に気付くようになるのである。

このような他者との関係の広がりや、同時に自我の形成の過程でもあり、自我が芽生え、自己表出することが中心の生活から、他者とかかわり合う生活を通して自己発揮しながら他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれるようになる。そして、自我の発達の基礎が築かれていくのである。

以上のことを踏まえると、幼稚園教育において、葛藤やつまずき、喜びや怒り、楽しさや悲しさを体験しながら、人に対する信頼感や思いやりの気持ちをはぐくむことは大変重要なことだと考える。

今回の研究においては、1年保育における幼稚園生活の前半の時期であることを踏まえ、人とかかわる力を、自分の思ったことを相手に伝え相手の思っていることに気付く姿、友達のよさに気付く姿と一緒に活動する楽しさを味わう姿で捉えていきたい。

2 集団のなかで個性を発揮する過程に視点をあてた幼児理解

「新幼稚園教育要領の解説」（小川博久他編著）において、岡上直子（東京都教育庁主任指導主事）は、幼児の発達や生活する姿を入園から終了までを見通し、幼児の生活の様相が大きく変化する発達の「節目」を捉え、その節目から節目までの間を「ねらいと内容を組織するための期間」として設定し、「集団のなかで個性を発揮する過程」に視点をあて図1のように示している。

幼児理解を深め、よりよい発達を促すために、幼児の個性を発揮している姿や友達とのかわり方などが、どの時期のどの発達段階にあるのかを理解し、発達の道筋に幼児の個人差があることや後戻りしながら成長を遂げる場合もあることなどを考慮しながら計画的に援助することが大切である。

そこで、岡上の「集団のなかで個性を発揮する過程」(図1)を本園の幼児理解に生かしていきたい。

本園の幼児は、約8割の子が入園前に保育園での集団生活を経験しているものの、園生活に慣れる過程には個人差が見られる。

そこで、図1「集団のなかで個性を発揮する過程」を踏まえながら月を追ってクラス全体の傾向と抽出児の様子を捉えてみた。

表1 集団のなかで個性を発揮する過程に視点をあてた幼児の実態

月	幼 児 の 実 態	※
4月	・ 保育園で一緒に過ごしてきた友達や、同じ学童へ通う友達と好きな遊びを見つけて遊ぶ幼児の姿が見られるが、他児とのかかわりにおいては一緒に遊んでいても幼児相互のつながりはあまり見られない。	期
5月上旬	【抽出児Aさん】・入園前に保育園での集団経験はあるが、活動の手順を個別に説明しないと理解できない場面や自分の思いを言葉で思うように表現できない等の生活経験の乏しさが感じられる。一人でパズルやお絵かきを楽しむことで満足しており、友達とのかかわりはあまり見られない。 ・ 園生活に不安を感じ欠席することがある。	期
	【抽出児Bさん】・幼稚園入園前には、保育歴が無く、幼稚園が初めての集団生活の場である。入園当初から不安げな表情をしていることが多く、登園時に母親と離れることに不安を感じ泣き出してしまうことがある。	
	【抽出児Dさん】・入園前に保育園での集団経験があり、入園当初から積極的に友達に声をかけたり、遊びに誘っている姿が見られる。	期
5月	・ ほとんどの幼児が園生活に慣れ、生活の流れや遊び方が分かり、気の合う2～5人の友達とブロックやままごと、園庭では砂遊びや鬼ごっこなどを楽しんでいる姿が見られる。	期
5月下旬	・ 友達に関心を示し、気の合う友達と遊ぶ姿が見られるが、友達と遊ぶ中で自分の思いをうまく伝え合うことができずに、遊具の奪い合いや、順番を守ることができない等、けんかやトラブルが起こる場面が見られる。	
6月	【抽出児Aさん】・教師の周りから離れることができない実態であるが、教師と一緒にあれば他児がままごとや花いちもんめ等をしている遊びの中に、入って行くことはできる。	期
	・ 友達の遊ぶ様子を見ることで、遊びに参加し共有しようとしているが関係性をつくり出せずに傍観している。	
	【抽出児Bさん】・同じクラスのFさんと一緒に過ごせるように配慮したことで、二人で遊ぶ姿が見られはじめ笑顔も見られるようになった。しかし、Fさんがそばから離れると不安がったり、登園をしぶったり、教室に入らずに職員室で過ごすこともある。	
	【抽出児Dさん】・自分の思い通りにしようとする事が多く、思いが伝わらないなど、友達が自分の思い通りにしてくれないと、すぐに手を出してしまったり、相手を傷つけてしまったりすることがある。	期

※印は、図1における発達の時期

3 人とのかかわる力を育てることに視点をあてた年間指導計画の作成

幼児の発達の過程を理解し、人とのかかわる力を育てていけるように、園生活において発達に必要な経験を積み重ねながら、幼児が豊かな体験を得られるような遊びや環境構成を年間を見通し工夫していくことが重要だと考える。

そこで、幼児の発達の姿（「集団のなかで個性を発揮する過程」）、ねらい 内容 環境構成と援助・発達の時期を捉えた遊びの視点から人とのかかわる力を育てることに視点をあてた年間指導計画を表2のように作成した。

表2 人とのかかわる力を育てることに視点をあてた年間指導計画

発達の姿	ね ら い	内 容	◇環境構成と援助☆発達を捉えた遊び
期 教師や安心できる友達の中で自分を出すようになり安定していく時期 4月～5月中旬	○先生や友達に親しみをもちいろいろなものにかかわることを楽しむ。 ○自分の好きな遊びを見つけ喜んで遊ぶ。	○先生や友達と話したり一緒に行動したりすることでつながりを感じる。 ○好きな遊具や場所を見つけ期待をもって登園する。	◇幼児との触れ合いを多くもち、安心感を与える。 ◇一人で安定する遊びを取り入れる。 ☆ブロック・積み木・絵本・砂遊び等 ◇友達に関心をもつような遊びを多く取り入れ、友達と遊ぶ楽しさがわかるようにする。 ◇「集まるって楽しいね」と思える時間をもつ。 （学級全体の中で安定する活動） ◇皆と一緒に動く楽しさを味わえるようリズミカルな集団遊びを取り入れる。
期 友達と一緒に遊ぶ中で相手を感じながら自分の動きをするようになる時期 5月～6月	○遊びの中で友達とかかわって遊ぶ楽しさを知る。 ○好きな遊びの中でイメージをもって遊ぶ。	○身の周りの環境に興味をもってかわり、自分なりの思いを抱いたり、そのイメージの中で遊んだりする。	◇先生や友達と触れ合える集団遊びを取り入れる。 ☆あぶくたつた・花いちもんめ・かごめかごめ等 ◇簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ☆ドンジャンケン・鬼ごっこ等 ◇集団遊びの中でかけ合いをしたり、合図を聞いて動ける遊びを取り入れる。 ☆だるまさんが転んだ・おおかみさん今何時等
期 気の合う友達との遊びの中で自分を出したり相手を受け入れたりして遊びを進めていく時期 6月～7月	○友達とのつながりを感じながら遊びを楽しむ。 ○友達が楽しんでいる遊びに関心をもち一緒に取り組もうとする。	○気の合う友達と遊ぶ中で相手の言葉や動きを感じ取りながら遊ぼうとする。 ○友達と一緒に活動することの楽しさを味わう。	◇気の合う友達とかかわり合いながら思いを伝え合える遊びを取り入れる。 ◇気の合う友達と一緒に協力し、工夫し合える遊びを取り入れる。 ☆砂遊び・構成遊び（新聞紙）・ごっこ遊び等 ◇気の合う友達と遊べるように遊具の種類や量などに配慮する。また、十分遊べるような場や時間にも配慮する。
期 友達を受け入れたり自己主張したりする中で葛藤を味わいながら自分の力を発揮する時期 9月～10月	○友達の思いを感じ取りながら遊びを楽しむ。 ○自分たちで考えたり、工夫したりする。	○いろいろな遊びに興味をもってかわりながら、皆と一緒に活動することの楽しさを味わう。	◇友達と一緒に競争したりする楽しさがわかり、頑張ったり、応援したりできるようにする。 ◇共通の目的に向かって取り組む遊びを取り入れる。 ☆リレー・玉入れ・鬼遊び・サッカー等 ◇友達と一緒に遊びを進める中で共通のイメージをもって遊べるように配慮する。 ◇友達同士のつながりをもたせながら、言葉で自己主張できるようにする。
期 友達関係を深める中で相手のよさを受け止めながら自分なりの課題	○友達と思いを伝え合いながら遊びを楽しむ。 ○感じたことや考えたこと	○身近な環境とかかわりの中で気付いたり、発見したことを友達と伝え合ったり共感し合っ	◇自主的に遊ぶ中で、グループ同士でイメージを伝え合いながら遊びが広がるように配慮する。 ◇一人一人が目標をもって取り組む遊びを取り入れる。 ☆縄跳び・ヤットコ・竹馬・鉄棒・フープ等 ◇共通の課題に向けて友達と考え工夫しながら皆で協力して楽しめる環境をつくる。

をもって取り組むようになる時期 10月～12月	りを工夫しながら、表現しようとする。	しながらたりする。○仲間とりを感じながら活動する楽しさを味わう。	る。◇友達と役割を分担したり協力したりするのつながり取り入れる。 ☆ごっこ遊び・楽器遊び・迷路づくり・基地作り等 ◇友達と一緒にやり遂げようとする気持ちをもてるようにする。
期 互いの力を認め合いながら、協力して遊びや生活を進める時期 1月～3月	○生活の中で出会う様々な問題について先生や友達と一緒に考え解決しようとする。 ○共通の目的に向かって友達と考え合ったり話し合ったりして活動を進める。	○目的に向かって自分なりに工夫したり挑戦したりして遊ぶ。 ○自分の思いを伝えたり、友達の思いに気付きながら遊びを進めていく。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。	◇学級全体やグループで取り組む楽しさを感じられるようにしながら、その中で個々の取り組みを認め、やり遂げた満足感や喜びが味わえるようにする。 ◇友達同士で自主的に遊べる遊びを取り入れる。 ☆正月遊び・郵便ごっこ・サッカー・ドッジボール等 ◇グループの中で考えたり工夫したりする遊びを取り入れる。 ☆空き箱製作・協同製作等 ◇グループの遊びがじっくりと進められる場や時間を確保する。 ◇いろいろな活動の中で自分を発揮しながら友達と互いに認め合えるようにする。

本園の幼児の実態を、年間指導計画からみると、クラス全体としては 期の「友達と一緒に遊ぶ中で、相手を感じながら自分の動きをするようになる時期」と捉えており、幼児のよりよい発達を促すために 期の「気の合う友達との遊びの中で、自分を出したり相手を受け入れたりして遊びを進めていく」経験を踏ませたいと考える。

そこで、幼児が自分の思いや考えを伝え合いながら、友達と遊ぶ楽しさを味わうことができる遊びと環境構成の工夫について考えていきたい。

抽出児Aさん・Bさんにおいては、教師が友達との仲立ちをしながら、「友達と一緒に遊ぶ中で、相手を感じながら自分の動きができる」よう、また抽出児Dさんにおいては友達との遊びの中で、「相手の思いや考えに気付き受け入れながら遊びを進めていく」ことができるような援助の必要があると考える。

4 人とのかかわる力を育てる援助の工夫

(1) 発達の過程を捉えた遊び

幼稚園教育要領解説第1章第1節(2)遊びを通しての総合的な指導の中で「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通して幼稚園生活で育てたいねらいが総合的に達成されるようにすること」が示されている。

幼児は遊びの中で他者とのかかわり合いながら、自己発揮・自己抑制・思いやり・協力すること・伝え合うこと・ルールを守ること等を学んでいく。

このような遊びの重要性を再認識し、遊びの中で楽しさを共有できる体験を豊かに味わえることが、人とのかかわる力を育てる上でも重要であると考えます。

本研究においては、幼児の発達の姿が前述した年間指導計画の 期の「気の合う友達との遊びの中で、自分を出したり相手を受け入れたりして遊びを進めていく」経験ができるように、幼児が興味、関心を示している「新聞紙を使った遊び」を取り上げ、主体的にかかわりながら、発達の過程に即したよりよい経験が得られるよう遊びの工夫を行う。

(2) 環境構成の工夫

環境を構成するということは、単に遊具を用意したりすることではない。遊具や用具の数や置き方を工夫したり、それらと友達や教師との動きとを関連づけたり、幼児同士の動きを関連づけたりするなど、幼児の発達の過程を理解し、幼児自らが発達に必要な経験を積み重ね、心を動かされる状況をつくりだしていくことである。

また、環境を通して行う幼児教育において、教師自らも重要な環境の1つであり、幼児にとって人的環境である教師の果たす役割は大きい。教師は幼児の心の動きを捉えて適切な状況を生み出すだけでなく、自らもモデルとして幼児に影響を与えていくことになる。

これらを考慮し、幼児の主体的な活動の中で環境の構成をしていくために 発達の時期に即した環境、 興味や欲求に応じた環境、 生活の流れに応じた環境、この3つの視点を踏まえ、幼児が主体的に興味ある活動に取り組み、その活動を通して人とのかかわる力を育てていくために計画的に環境を構成していく必要がある。

そこで、年間指導計画 期の「気の合う友達との遊びの中で自分を出したり相手を受け入れたりして遊びをすすめていく」経験ができる環境構成と援助の工夫を「かかわりを促す」「場や空間」「イメージを豊かにする」「再構成」の4つの視点から捉え表3のようにまとめた。

表3 環境構成と援助の工夫

	環 境 構 成 の 工 夫	援 助 の 工 夫
か か わ り を 促 す	・教師と幼児、幼児同士の心の結びつきがあり、安心感や信頼感の中、自分らしさが出せるような雰囲気づくりをする。 ・一緒に遊びたくなるような素材や遊具、用具を用意する。 ・競争意識や仲間意識をもたせるようにルールを決めるなどの工夫をする。 ・ルールを守って遊ぶことの楽しさや大切さに気付けるようにする。	・一人一人の気持ちを受け止めたり、伝えたりできる話し合いの場を設ける。 ・自分の思いや考えをうまく表現できない幼児には、一緒に遊びながら気持ちの伝え方を教えたり、相手の気持ちをわかるように伝えていく。 ・主張の強い子には、相手の気持ちに気付かせ、消極的になりがちな子には、発言できるような機会を作っていく。 ・思いがぶつかり合う場面では、すぐに善悪の判断を下したりせず、双方の言い分を聞き、言葉の足りない部分を補ったり、思いを教師が代弁し相手の立場から考えていけるようにする。 ・ゲーム的要素の含まれた遊びを取り入れ、得点板を設ける、ルールを決めるなどの遊びを工夫する。
場 や 空 間	・作りたい物を作り上げていけるように十分な時間や空間を確保する。 ・活動の内容や参加人数によって場や空間の位置や広さの工夫をする。	・人数や構成を考慮して広さや用具の量を考える。 ・遊びの内容、展開に応じて子ども達と場を選んだり、作りかえたりし、十分に活動に取り組めるよう時間の配分を考える。
イ メ ー ジ を 豊 か に す る	・幼児の活動の参考になり、刺激を与える本や歌などの教材を用いる。 ・友達の動きや製作の際に工夫している点に気づき、幼児同士教え合えるようにする。 ・材料や用具、遊具など必要なものや分量を考えながら使えるようにする。	・幼児がどのようなイメージを描いているのかを読み取り、場や素材などを用意していく。 ・幼児の気付きや発見に共感し、それを他児にも知らせ、認め合える場を作っていく。 ・遊びがより発展するように、材料や用具の種類、提示の方法を考える。
再 構 成	・幼児の活動の展開に伴って、環境を自在に変えたり多様な環境が生まれるように柔軟に再構成していく。	・自分たちで遊びや生活が進められるよう、遊びに必要な物を一緒に出したり、素材や用具などを準備し、扱いやすいように用意する。

検証保育

1 幼児観

6月に入り、友達に関心を示し気の合う友達と遊ぶ姿が見られるが、友達と遊ぶ中で自分の思いをうまく伝え合うことができずに、遊具の奪い合いや、順番を守ることができないなど、けんかやトラブルが起こる場面が見られる。

このような場面も幼児にとっては友達とのかかわりを深めるためのよい経験だと捉え、様々な体験を通して人とのよりよいかかわりをもち、共に過ごすことの楽しさを味わえる子を育てたい。

【抽出児AさんとBさん】 Aさんは入園前に保育園での集団経験はあるが、Bさんは幼稚園が初めての集団生活である。二人とも自ら友達の中へ入っていくことができずに友達の遊ぶ様子を傍観する姿が見られる。

【抽出児Dさん】 自分の思い通りにしようとする事が多く、思いが伝わらないなど、友達が自分の思い通りにしてくれないと、手を出してしまうことがある。

2 保育観

この時期に、幼児の人とかかわる力を育てていくためには、遊びを通して自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを聞きながら楽しく過ごしたりする体験を豊かにもつことが必要だと考える。幼児が自分なりのイメージを膨らませ、友達とのかかわりの中で、イメージしたことを伝え合いながら遊ぶ楽しさを味わうために、新聞紙を使った構成遊びを取り入れていく。

また、友達とイメージを伝え合いどのような物を作るか相談し合える作戦タイムを設け、友達と互いに影響し合い、活動を楽しむための十分な空間を確保する。

3 検証保育までの実践

クラスでの新聞紙を使つての遊びと抽出児への環境構成と援助の工夫

週	◎ねらい	○環境構成の工夫	◇援助の工夫	・幼児の姿
第5週	【Aさん・Bさん】 ◎教師との信頼関係を築く。 ◎安心して園生活を送る。	【Aさん】 ○教師や友達と一緒にAさんの好きなパズルを楽しめるように大型パズルコーナーを1階ホールに設置する。	【Aさん・Bさん】 ◇言葉かけやスキンシップを多くもち安心感を与えるようにする。 ・教師の周りから離れられない。	期
第10週	【新聞紙で遊ぼう】 ◎教師や友だちと触れ合うことの楽しさを味わう。 ◎友達と一緒に新聞紙の感触を楽しみながら遊ぶ。	【新聞紙で遊ぼう】 ○新聞紙などの素材に親しませ感触を味わい、解放感を味わえるような環境にする。 ○材料コーナーに新聞紙を多めに用意しておく。	【Dさん】 ・雨天時に教師が置いた新聞紙を使ってDさんを中心にボール作りが始まり、しばらくすると男児を中心にボール投げへと遊びが広がっていった。しかし新聞紙をDさんが独り占めしようとしたことからトラブルが起きた。 ◇友達と一緒に遊ぶ中で相手の思いに気付いていけるように相手の思いを代弁していく。	期
	【Aさん・Bさん】 ◎友達と触れ合いながら遊ぶ楽しさを味わう。	【Aさん・Bさん】 ○「花いちもんめ」などの友達とかかわって遊べる集団遊びを取り入れる。	【Aさん・Bさん】 ◇教師も遊びに入り一緒に楽しむ。	期

※印は、図1における発達の時期

週	◎ねらい	○環境構成の工夫	◇援助の工夫・幼児の姿
第11週	【新聞紙で遊ぼう】 ◎新聞紙をちぎって雨に見立てて遊んだり大きなボールにしたりして友達と一緒に遊ぶ。 ◎簡単なルールを守って遊ぶ。(的あてゲーム) 【Aさん・Bさん】 ◎先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。	【新聞紙で遊ぼう】 ○好きな友達と解放感を味わいながら十分遊べるように新聞紙の量や場、時間に配慮する。 ○皆が楽しめるよう、簡単なゲームを取り入れる。 【Aさん】 ○Aさん、他児も一緒にままごとコーナーに人形のベッドや棚を設置し興味をもてるように再構成していく。 ○砂場近くにままごとコーナーを作り戸外でも友達とかかわってごっこ遊びを楽しめるようにする。	【新聞紙で遊ぼう】 ◇グループで協力して遊びに取り組むことを話し、ルールをわかりやすく説明する。 【Dさん】 ◇Dさんや2～3人の男児がふざけてボールを持ち出してしまいゲームが続かない。 「皆は、どう思う？」と周りの子に投げかけDさんが友達の思いに気付いていけるように援助する。 【Aさん】 ◇他児と一緒にAさんがままごとを楽しめるように誘っていく。 【Bさん】 ◇砂や水の感触を楽しみながら、思いや考えを伝え合い、ごっこ遊びを楽しめるようにする。
	第13週	【新聞紙で遊ぼう】 ○思いや考えを伝え合いながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ○イメージを出し合いながら友達と一緒に楽しむ。	【Dさん】 ○気持ちの伝え方を教えるなど相手の気持ちに気付くように伝えていく。 【Aさん・Bさん】 ○友達の思いを聞きながら一緒に遊ぶ楽しさを味わえるように誘っていく。

※印は、図1における発達の時期

4 検証保育指導案

(1) 構成遊びの意図

幼児が、これまでの保育の中で楽しんできた新聞紙を使った遊びの中から、友達とかかわり合いながら思いを伝え合える場面が多く起こると思われる、新聞紙の棒を利用した構成遊びを保育に取り入れる。そのことにより遊びの中で友達と思いを伝え合いながら楽しむ経験をして欲しい。

また、抽出児AさんとBさんにおいては、発達の段階を踏まえ、友達の思いを聞き入れながら、楽しく遊べるように、またDさんにおいては、相手の思いや考えに気付き受け入れながら遊びを進めていけるようになって欲しい。

(2) ねらい

自分の思いや考えを伝え合いながら友達と遊ぶ楽しさを味わう。

(3) 内容

新聞紙での遊びを通して、友達や先生と一緒に楽しく遊ぶ。

イメージしたことを伝えたり聞いたりする。

(4) 保育の視点

友達と一緒に新聞紙での遊びを楽しんでいるか。

自分の考えや思いを伝え合う場面があるか。

友達と一緒に新聞紙での遊びを楽しむための環境構成ができているか。

(5) 保育指導案

時間	予想される幼児の活動	◎ 教 師 の 援 助	☆ 環 境 構 成
8:15	○登園する。 ○挨拶をする。 ○所持品の始末をする。	◎一人一人と挨拶を交わしながら温かく迎え、心身の状況を把握する。	☆一人一人と言葉を交わしながら状態を見ていく。
8:30	○朝の清掃をする。【園庭】	◎子ども達と一緒に朝の清掃や水かけをし、きれいになった喜びを味わわせる。	☆今日の遊びへの期待がもてるように言葉かけをしていく。
8:40	○好きな遊びを楽しむ。 【園庭】 ・砂遊び ・ごっこ遊び ・スクーター ・リズムダンス ・的あて	◎砂や水の感触を味わいながら遊びを楽しめるように、幼児の状況を見ながら、用具の種類や必要な数、量を調整する。 ◎幼児が何をしたいのか、どのようなイメージを描いているのかをよみとり、素材や用具などを用意し取り組んでいる遊びを充実させる。 ◎遊びの内容、展開に応じて子ども達と場を選んだり、作りかえたりし、十分に活動に取り組めるよう時間の配分を考える。	☆遊びに必要な物は、幼児が取り出しやすいように種類ごとに分別しておく。 ☆一人一人の、やりたいことをイメージしながら素材や用具を準備する。 ☆教師も共にかかわりながら遊びを見守ったり言葉かけをしたりしていく。
9:15	○片付けをする。 ○手洗い、排泄をすませる。 ○遊戯室へ移動する。	◎一緒に片付けをし、きれいに片付けると気持ちがよいことを感じとれるようにする。 ◎前日の活動を思い出し、次の活動を楽しみにできるように話をする。	☆使った用具や材料を片付ける場所や片付け方がわかるように表示をし言葉かけをしていく。
9:30	【2階遊戯室にて】 ○お話を聞く。 ○遊びの中での約束事を確認する。 ○作戦タイム ○友達と一緒に作って遊ぶ。	◎どのような形を作りたいか、幼児がイメージを膨らませやすいように、「新聞紙であそぼう」を読み聞かせし、教師が作った三角や四角の形を提示する。 ◎「棒の使い方（叩かない）」「お友達が作った物を壊さない。」「グループのお友達と相談しながら作る」3つの約束をする。 ◎お互いの思いを伝え合えるように作戦タイムを設ける。 ◎困っている時には他児にも投げかけ、幼児同士で工夫し合えるようにしながら一緒に考えていく。 ◎技術的に困っているグループに、工夫し上手に作成しているグループを紹介し教え合えるようにする。 ◎気持ちの伝え合いができずにトラブルが起こることがあるので、幼児の考えや気持ちを十分に受け止めながら、それを相手に伝える方法や、言葉に気付かせていく。	☆新聞紙の棒や材料、用具等をグループごとに用意しておく。 ☆幼児同士のかかわりがもてるように、生活グループの活動にする。 ☆幼児が作りたい物を作りあげていけるように十分な空間を確保する。 ☆相談しやすいようにグループに分かれて座り話を聞く。
10:10	○片付けをする。	◎一緒に片付けをし、きれいに片付けると気持ちがよいことを感じとれるようにする。	☆材料や用具は必要な物や分量を考えながら使うようにさせる。
10:35	○集まる。	◎各グループのよいところ、工夫しているところ、頑張っているところを認め、友達にもよさを伝えていく。	☆教師も共にかかわりながら、困難な場面では手伝い、使い方を知らせていく。
10:45	○今日の出来事を話し合う。 ○絵本を見る。	◎幼児の思いを受け止めて、話し合ったり、認め合ったり、共感したりしながら、月曜日の活動へ期待がもてるようにする。	

結果と考察

発達の時期を捉えた遊びと環境構成を工夫すれば、人とかかわることの楽しさを味わえる幼児が育つであろう。

ここでは、幼児が自分の思いを相手に伝え相手の思いに気付いたり、一緒に活動する楽しさを味わったりすることができたかを検証していく。

手だて1 遊びと援助の工夫

友達と何を作るか相談したり協力し合ったりしなければ、思うようにいかない新聞紙の構成遊びを行った。その中で、Aさんには生活グループの友達の思いを聞き入れながら楽しむことを、Bさんは友達と一緒に活動することの楽しさを味わって欲しいと考えた。

【結果1 抽出児AさんとBさんのかかわり合いの様子から】

友達とのかかわりが少ないAさんは、同じグループの幼児達が迷路作りを始めてもその様子を見ているだけで、遊びの中へ入っていきとしない。

教師は、Aさんがグループの中に入って構成遊びを楽しんで欲しいという願いから「お友達と一緒に迷路を作ろうか？」とAさんを誘い見守ってみるが、参加しようとはしなかった。

同じようにグループの活動に入ることができずに遠くから友達の様子を一人不安げに見つめているBさんに「Aさんと一緒に遊ぼう」と誘い、AさんとBさんが一緒に遊べる場を作っていた。教師が離れ見守っているとAさんが新聞紙の棒を組み合わせ始め、側で見ているBさんに「テープを持ってきてちょうだい！」と声をかけており、Bさんがテープを切ってAさんに渡し、貼り合わせながら遊び始めるAさんの姿があった。その作業を何度も繰り返しているうちに、不安そうにしていたBさんにも笑顔が見られるようになり、Aさんに催促されなくても、自分で考えてテープを張り合わせるようになってきた。「AさんとBさん楽しそうだね。素敵なものができそうだね。」と二人で協力しながら構成遊びを進めていったことを、AさんとBさん自身が意識できるように二人に伝えていった。しばらくすると「先生、見て。橋を作ったよ。Bさんも一緒に作ったんだよ。」と嬉しそうに製作した作品を教師に見せに来るAさんの姿が見られた。

【結果1の考察】

Aさんにはグループの中に入って友達と構成遊びを楽しんで欲しいという願いをもち、言葉かけをして様子を見守ったが動きはなかった。Bさんは、生活グループでの活動に対して不安を感じている様子が表情から読み取れたため、無理にグループでの活動を強いることなく別の仲間とのかかわりの中で友達と一緒に活動する楽しさを経験させたいと考えた。

そこで、おとなしく、遊びに対する関心や興味のもち方に共通点がある二人と一緒に活動させることで、友達とかわって遊ぶことの楽しさを味わわせることが出来るのではないかと考え、Bさんを誘いAさんと遊ぶきっかけ作りをし、教師も一緒に遊びながら援助を行っていった。

そのことにより、今まで友達に対して自己表出することがあまり見られなかったAさんが構成遊びの中で自己発揮し、Bさんをリードしながら楽しそうに遊んでいる姿につながった。

そして、AさんとBさんが自分の思いを相手に伝え、相手の思いに気付く事や、一緒に活動する楽しさを味わうことができたのではないかと考える。

また、二人が協力し合いながら構成遊びを進めていったことを、AさんとBさん自身が意識できるように教師が二人に伝えていったことも一緒に活動する楽しさを感じさせる事につながり、Aさんの「Bさんと一緒に作ったよ」という言葉を表出させたのではないかと考える。

しかし、グループ編成については、幼児の実態を踏まえ、気の合う友達同士の編成にすべきであったと反省する。

手だて2 環境構成と援助の工夫

自己主張の強いDさんに対し、図1 期の「自分の思いを伝えながら、相手の思いに気付いていけるような経験」をさせる中で友達の良さに気付かせたいと考えた。そこでグループの友達と相談しながら製作活動を進めていけるよう作戦タイムを設けたり、他のグループの友達ともかかわり合えるよう製作活動を得意とするグループの近くに位置させるなど、援助を工夫していった。

【結果2 Dさん和他児とのかかわりから】

Dさん：「あの望遠鏡かっこいいな。俺たちも作ろうぜ。」

と、隣のグループが作っている望遠鏡を、同じグループの仲間と製作し始めるが、イメージ通りの物を作ることが出来ない。

Dさん：「Eさんがちゃんとつかまえないから出来ないんだよ！」とその苛立ちをグループのEさんにぶつけている。

教師：「Eさんが悪いんじゃないよ、Eさん困っているよ。」とEさんの気持ちに気付けるよう言葉かけを行い教師は少し離れて、見守ることにした。

Dさんに強い口調で怒鳴られ、泣き出しそうになっているEさんに気が付いた同じグループの仲間達が、

C1：「Eが泣きそうになっている。」

C2：「Eは、悪いことしていないのにかわいそうだな。」

と口々に言い出したので、Dさんはばつが悪そうにEさんを見つめている。

Eさんに謝ることはしなかったが、それからDさんは、グループの仲間に手を出したり、怒ったりすることはなかった。

Dさんのグループの望遠鏡作りが思うように進まない事に対して、

教師：「赤グループの人に作り方を教えてもらったらどうかな・・・。」

と上手に製作を進めているグループに目を向けさせ、Dさんが他児の考えや思いを受け入れながら、製作していくきっかけが作れるように言葉かけをした。

しばらく、黙って赤グループの様子を見ていたTさんだが、

Dさん：「どうやって作ったのか教えて。」

と赤グループの友達に自ら声をかけ作り方を教えてもらっている。

C3（赤グループの友達）：「ここをくっつけた方が、きれいにくっつくよ！」

C4（赤グループの友達）：「こっちを強くテープで止めるといいよ。」

と赤グループの友達も教えてあげることを喜んでいる。

Dさん：「赤グループはこうやって、つなげていたよ。」

Eさん：「じゃあ、Dさんは、こっちをつかまえてちょうだい。」

Dさん：「いいよ。」

DさんとEさんが一緒に工夫し合い、製作に取り組む姿が見られた。

その後、このグループは「この形、タコに見えるな。」「次は迷路にしよう。やっぱり、ガードにしようぜ！」と、次々とイメージを膨らませながら、皆で構成遊びを楽しんでいた。

教師：「Dさん、友達と一緒に上手にできたね。すごいね。」

「Dさんのグループが、かっこいいガードを作ったよ。」

とDさんの頑張りを認め、他児に紹介してあげた。得意気なDさんの笑顔が見られた。

【結果2の考察】

Dさんが自分のイメージ通りに製作することができずに苛立ちをEさんにぶつけている場面を捉え、Eさんの気持ちに気付いていけるように言葉かけを行い、幼児同士のかかわりの中で相手の思いに気付いていけるよう見守る援助をしていくことにした。教師の言葉かけで、Eさんの気持ちに気付いた同じグループの仲間の「Eかわいいそうだな。」などの言葉から、Dさんの表情や行動に変化が見られた。教師からの注意で行動を改めるという経験も必要ではあるが、ここではDさんのみならず同じグループの他児についてもEさんやDさんのことを考えさせる機会にしたいという願いや幼児同士のかかわりの中でDさんがEさんのことを考え、自分の行動を振り返らせたいと願った援助である。

その後Dさんが自己主張しすぎる場面は見られず、Eさんと一緒に工夫し合いながら製作活動に取り組む姿が見られた事からも、相手の思いや考えに気付き受け入れながら遊びを進め、人とかかわる力を育てるためのいい経験になったと思われる。

また、友達の作品を参考にしたり、幼児が作りたい物を製作していけるようにグループの仲間と話し合える場や、作りたい物を作り上げていける空間を確保した場の構成により、Dさんの「赤グループのような望遠鏡を僕も作ってみたい」という思いが育ったと思われる。

そして、教師が「赤グループの人に作り方を教えてもらったらどうか」と言葉かけの援助をしたことがきっかけとなり、Dさんの他のグループへの働きかけやよさを取り入れる姿へとつながり一緒に活動する楽しさを味わうことができたのではないかと考える。

研究の成果と課題

1 成果

- (1) 人とかかわる力を育てるため、「集団のなかで個性を発揮する過程」(図1)を幼児理解に生かし、発達の方角を見通した年間指導計画を作成することができた。
- (2) 人とかかわる力を育てる視点で幼児の発達を捉え、遊びや環境構成を意図的、計画的に工夫したことで、友達とかかわって遊ぶことの楽しさを味わえるような援助をすることができた。

2 課題

- (1) 人とかかわる力は、園生活のすべての場面で育っていくこと、長期的な発達過程で捉えていくことを考慮し、チーム保育や保育カンファレンスの充実を図る。
- (2) 人とかかわる力を育てていけるよう園内だけではなく、家庭や地域の人たちとのふれ合いやかかわりがもてるような取り組みの見直しや充実を図る。

《主な参考文献》

「幼稚園教育要領解説」	文部省	フレーベル館	1999
「新幼稚園教育要領の解説」	小川博久他編著	ぎょうせい	1999
「保育の基本と環境構成」	神長美津子	ひかりのくに	1998
「一人ひとりを育てる」	小田豊編著	ひかりのくに	1994